

米国における空飛ぶクルマに関する政策の最新動向2023

～実用化に向けた多面的な取り組み～

第157回運輸政策コロキウム ～ワシントン・レポートXVⅢ～

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所において、『米国における空飛ぶクルマに関する政策の最新動向2023～実用化に向けた多面的な取り組み～』と題し、第157回運輸政策コロキウムを開催致します。

ご関心をお持ちの皆様におかれましては、オンライン配信にてぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。また、皆様の身近でご参加頂けるような方々に広くご周知いただければ幸いです。

なお、ご参加に際しては、大変恐縮ですが、下記の申込専用 URL からお手続き下さい。

敬具

記

○第157回運輸政策コロキウム ～ワシントン・レポートXVⅢ～

米国における空飛ぶクルマに関する政策の最新動向2023

～実用化に向けた多面的な取り組み～

日 時：2023年12月5日（火）10:00～12:00

会 場：オンライン配信（Zoom ウェビナー）

1 発表およびコメント

発表者：釣 慎一朗 ワシントン国際問題研究所 研究員

コメンテーター：鈴木 真二 東京大学 名誉教授

東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

2 ディスカッション

コーディネーター：屋井 鉄雄 運輸総合研究所 所長

参加者：発表者およびコメンテーター

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/collo231205>

（申込期限：12月1日（金）まで）



※お申し込みいただいた方には、12月4日（月）に視聴用 URL を送付いたします。

概要：

世界的に開発、活用が拡大している無人航空機（ドローン）に続き、いわゆる「空飛ぶクルマ」について、我が国では2025年大阪関西万博において商用運航の実現を目指しており、2023年度中に必要な制度整備を行うこととしている。また、欧州では2024年パリ五輪において、米国でも2025年の商用運航の実現を目指しているところ、その実用化に向けた機体の開発や制度整備が各国で進んでいる。2021年1月に開催された運輸政策コロキウムでは、空飛ぶクルマの実現に向けた課題や課題に対する取り組み、開発状況等について、当時の米国の状況を中心に発表が行われた。

本コロキウムでは、その後の進捗状況や最新の情報も踏まえ、各国のベンチャー企業等による空飛ぶクルマの開発状況のほか、機体認証、運航、離着陸場等の基準やコンセプトから、人材育成、社会受容性等についての取り組みに渡る、米国連邦政府による空飛ぶクルマ（Advanced Air Mobility (AAM)）に関する政策の最新動向、欧州及び我が国における空飛ぶクルマに関する政策の動向、将来的な空飛ぶクルマの実用化に向けた考察等について発表し、議論を行う。

発表者：釣 慎一郎

ワシントン国際問題研究所 研究員



略歴：

- 2003年3月 東京大学 工学部 航空宇宙工学科 卒業
- 2006年3月 東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 修了
- 4月 国土交通省入省（自動車交通局技術安全部技術企画課）
- 2008年4月 航空局 技術部 航空機安全課 機体係長
- 2010年6月 人事院長期在外研究員（ミシガン大学公共政策大学院）
- 2012年6月 航空局 安全部 航空機安全課 航空機技術審査センター 専門官
- 2019年7月 航空局 安全部 運航安全課 乗員政策室 課長補佐
- 2021年4月 航空局 安全部 運航安全課 養成企画調整官
- 10月 航空局 安全部 運航安全課 課長補佐（総括）
- 2022年4月 航空局 安全部 安全政策課 課長補佐（総括）
- 2023年4月 現職

社会活動：国際民間航空機関 航空委員会

人材訓練・ライセンス制度パネル アドバイザー（2021）

専門分野：航空（特に航空機の型式証明、装備品の型式/仕様承認、乗員ライセンス、運航基準等）

コメンテーター:鈴木 真二
東京大学 名誉教授/東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

1977年東京大学工学部航空学科卒業、1979年同大学院工学系研究科修士課程修了。(株)豊田中央研究所を経て、1986年東京大学工学博士取得、同工学部助教授。1992年Purdue大学客員研究員を経て、1996年東京大学大学院教授。2019年現職および東京大学名誉教授。専門は、航空機力学、航空イノベーション。(一社)日本航空宇宙学会会長(第43期)、(一社)日本機械学会副会長(第95期)、International Council of Aeronautical Sciences (ICAS)会長(2019-20)、(一社)日本UAS産業振興協議会理事長(2014~)、(一社)航空イノベーション推進協議会代表理事(2018~)、福島ロボットテストフィールド所長(非常勤)(2019~)、日本学術会議連携会員(2014~)など。



主な著書、『落ちない飛行機への挑戦: 航空機事故ゼロの未来へ』(化学同人、2014)、『飛行機物語—航空技術の歴史』(筑摩書房、2012)

コーディネーター:屋井 鉄雄
運輸総合研究所 所長


屋井鉄雄氏は、東京工業大学の特命教授・名誉教授、東京医科歯科大学の特任教授で、両大学の将来キャンパス計画の策定・推進等に携わっている。また2023年6月より運輸総合研究所の所長を務めている。過去には東京工業大学の教授、研究科長、副学長、交通政策審議会の委員、部会長、分科会長、アジア交通学会(EASTS)の事務局長、会長(2015-2019)などを歴任している。主な著書には土木と環境の計画理論(2021)などがある。専門は国土・都市計画、環境交通工学、交通運輸計画。東京都出身。東京工業大学土木工学科卒業、同大学院修士、博士後期課程修了。工学博士。MIT客員准教授(1994-1995)、ヘルシンキ工大客員教授(2002)、フィリピン大学ディリマン校客員教授(2009,2014)。米国TRB市民参加委員会委員(1999-2003)、米国TRB国際協力委員会委員(2015-2019)など。

主なSDGs関連項目



運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

 Supported by  **THE NIPPON 財団 FOUNDATION**

お問い合わせ：一般財団法人運輸総合研究所 担当：小御門、小林	
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19 (UD 神谷町ビル)	
TEL : 03-5470-8415	FAX : 03-5470-8401
E-mail : collo2@jttri.or.jp	HP : https://www.jttri.or.jp/